

国産材生産の現状と課題

林業経営・政策研究領域 □□ 遠藤日雄

1. 背景と目的

わが国の木材市場においては、外材が8割という圧倒的シェアを占めていることは周知のとおりである。しかしその一方で、木造軸組工法住宅の柱角市場では、スギを中心とした国産材が過半を占めている。本課題では、主要生産地である南九州を中心にしてその実態と背景を明らかにした。

2. 成果

わが国の住宅メーカー最大手が、1998年の新設木造軸組工法住宅（44万7,287戸）で使用された柱角約3,800万本を樹種別に試算したデータがある。それによれば、スギ39%、ヒノキ10%、エゾ・トド5%であり、国産材が54%と過半を占めている（図1）。また、十條木材㈱（本社東京）も同様の試算を行っているが（1都3県を対象）、それによれば、スギだけで45%強と半分近くのシェアを占めている。「国産材時代」を、わが国の木材市場において国産材が過半を占め、木材需給をリードしていくという意味に理解すれば、少なくとも数字上では、わが国の柱角市場においては「国産材時代」が実現していることになる。

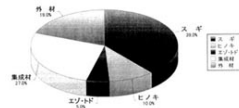


図1. 在来工法住宅の柱角の樹種別割合
（全国ベースでの試算）

それでは、このような状況がもたらされた背景は何か。次の諸点が考えられる。

(1) スギ柱角の最大の競合相手である北米のミツガ材産地の柱角供給能力が1990年代後半から著しく低下したこと。

（右段上へ）

(2) 南九州を中心としたスギ量産製材工場の開設によって、ミツガ材材に対抗可能なコストダウンが実現したこと（例えば、耳川林業事業協同組合のスギ量産工場では、1987年の操業当時製材コストが5,300円/m³であったのが、最近では3,800～4,000円/m³にまでダウンしている）。

(3) 宮崎県を中心とした南九州において、戦後造林スギの成熟化を背景に安価な柱角の供給（表1）が実現していること。

(4) しかし、安価な製材品の供給は、製材コストの縮減もさることながら、立木価格の切り下げによって実現している点に留意が必要であること。

(5) この結果、南九州ではスギ立木価格が下がれば下がるほど、スギ素材生産量が増加するという異常な現象が惹起していること（図2）。

(6) この背景には、近年の木材価格の異常な低下のもとで（図3）、森林所有者が財産としての人工林を処理し始めたことを示唆していること。これは、現在、南九州で深刻化している再造林放棄（皆伐跡地へ再造林をしないこと）をみても明らかである。

(7) このように、伐採して得た立木代金では再造林が不可能という意味で、現在のわが国の林業ではスギ立木価格≒0という現象が生じていること、などである。

こうしたスギ立木価格≒0という異常な現象は、グローバル市場化のもとで、国産材製材品が安価な外材製品と熾烈な競争を余儀なくされ、これが市場逆算方式に決定的な影響を与えるからにほかならない。とすれば、この方式とは別に、立木価格≒0のもとでも原木を安定的に供給可能な体制を構築していくことが必要であろう。そのためには、再造林費用に公的資金を100%充てるなどの助成措置を検討する必要があるが、その際、例えば、公的資金を受けた森林所有者に対して、伐採時の地域林業計画（原木を計画的安定的に供給できるシステム）参加の義務づけなども必要であろう。

		単位：円/m ³ 、%			
品 目		1996年末	1998年末	96年対比(円)	96年対比(%)
小 角	10.5cm角 1等	50,000	30,000	-20,000	▲40.0
	10.5cm角 特1等	55,000	30,000	-25,000	▲50.0
	10.5cm角 上小	80,000	65,000	-15,000	▲18.8
	12.0cm角 特1等	55,000	30,000	-25,000	▲45.5
	9.0cm角 1等	42,000	20,000	-22,000	▲52.4
	9.0cm角 特1等	50,000	30,000	-20,000	▲40.0
	10.5cm角 1等	40,000	20,000	-20,000	▲50.0
	10.5cm角 特1等	45,000	27,000	-18,000	▲40.0
	2.1×4.5cm 特1等	47,000	30,000	-17,000	▲36.2
	3.0cm角 特1等	45,000	30,000	-15,000	▲33.3
小 割	3.0×4.5cm 特1等	45,000	30,000	-15,000	▲33.3
	4.5×10.5cm 特1等	48,000	30,000	-18,000	▲37.5
	4.5×10.5cm 1.2面無地	150,000	100,000	-50,000	▲33.3
	3.0×10.5cm 1等	45,000	30,000	-15,000	▲33.3
	10.5×15.0cm 1等	45,000	25,000	-20,000	▲44.4
平	10.5×24.0cm 1等	45,000	30,000	-15,000	▲33.3
	10.5×30.0cm 1等	50,000	35,000	-15,000	▲30.0
	10.5×30.0cm 1等	50,000	35,000	-15,000	▲30.0

資料：『木材建材ウィクリー』No.1193、1998年2月16日、日刊木材新聞社。

表1. 熊本県の製品市場のスギ製材品の落札価格の推移

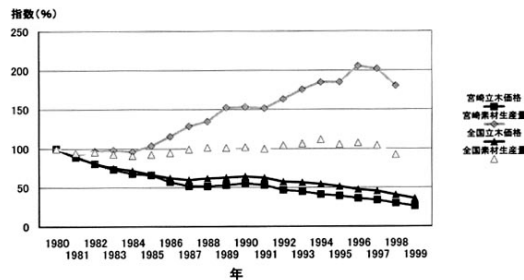


図2. スギの立木価格と素材生産量(指数)の推移(宮崎県と全国の比較)

注:1980年=100とした指数

資料：日本不動産研究所「山林素地及び山元立木価格調(平成11年3月末日現在)」、農林水産省「木材需給報告書」

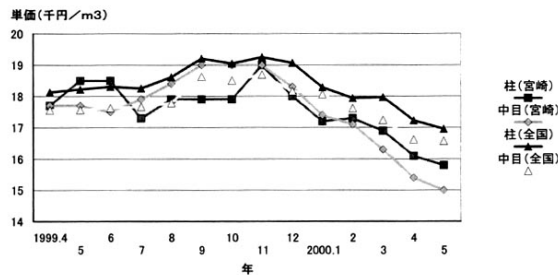


図3. スギ丸太価格の推移(全国、宮崎)

柱：14～18cm、3m、中目：22～28cm、3.64～4m

資料：全国森林組合連合会調べ。